

令和6年度 第2回川崎市教科用図書選定審議会 議事録

開催日時：令和6年6月28日（月）午前10時00分～午後3時40分

開催会場：川崎市総合教育センター 第2研修室ほか

出席委員数：川崎市教科用図書選定審議会委員11名（欠席委員5名）

（事務局）

本日は、大変お忙しい中、また、お足元が悪い中御出席いただきまして誠にありがとうございます。

ただいまより令和6年度第2回川崎市教科用図書選定審議会を開催いたします。

私は、本日の選定審議会の司会進行を務めさせていただきます、川崎市教育委員会事務局学校教育部指導課指導事務担当係長の横山と申します。よろしくお願いいたします。

まず始めに資料の確認をさせていただきます。

本日は、お手元に置かせていただいている端末を使って資料を見ていただければと思います。上のタブのところに次第、資料1、資料2が表示されていると思います。もし途中で操作が分からなくなった場合は、挙手いただければ担当の者が伺って操作します。

また、資料2－1調査研究報告につきましては、紙でお手元に配布しておりますので御確認いただければと思います。

まず、端末の資料1の1ページを御覧ください。この審議会は、16名の委員で構成されておりまして、本日出席されている委員の人数は、11名でございますので、資料1の3ページにございます「川崎市附属機関設置条例」の第7条第2項に規定する会議の成立要件である「委員の半数以上が出席」されていることを御報告申し上げます。

また、第1回審議会で御承認いただきましたが、この会議は会議の性格上、非公開でございます。本日お配りしております資料につきましては、会議終了後に回収することになっておりますので、御理解のほどお願い申し上げます。

続きまして、審議に入る前に、本日の審議手順について、指導課担当課長の山本から説明いたします。

おはようございます。学校教育部指導課の山本でございます。

本日は足元が悪い中、お集まりいただきましてありがとうございます。本日の審議会は、令和7年度に使用する、中学校教科用図書について、御審議いただくことになります。よろしくお願いいたします。座って説明させていただきます。

まず、資料1の10ページをスクロールして観ていただければと思います。10ページの（5）調査審議の視点というところがございます。

1点目は、「学習指導要領との関連というところになります。」、2点目は、「編集の趣旨と工夫」になります、3つめに「内容」、その次に「構成・分量・装丁」、最後に「表記・

表現」とあります。

この5つの観点に基づき、調査審議をお願いするものでございます。

続いて14ページまでお進みいただきますでしょうか。図が14ページには出てございますが、まずフロー図①というものを御覧いただければと思います。

教科用図書の採択にあたりましては、「学校教育の関係者、学識経験者、教育委員等がそれぞれの立場、それぞれの視点で多角的に教科用図書を評価する」というプロセスを経るため、教科用図書選定審議会、調査研究会等を設置して、教科用図書の採択における適正さ、公正さを確保してまいりたいと考えているところでございます。

採択までの流れですが、初めに、教育委員会が①というものがございしますが、教科用図書選定審議会に対して教科用図書の審議を諮問するとともに、下になりますが②のところで調査研究会、さらに下の③というところで各学校に対して調査研究を依頼いたしました。

依頼及び諮問を受け、各学校では全ての種目の教科用図書に関して④というところになりますが、編集・内容等の項目について調査内容をまとめ、調査研究会に報告をしております。

また、教育委員会が推薦を依頼しまして、任命された調査研究員により構成されております調査研究会が、⑤のところになりますが、各学校から報告のあった調査研究をまとめまして、また、⑥というところで調査研究を独自にまとめて、教科用図書に係る報告書というものを作成しております。

次に、この選定審議会での審議になりますが、選定審議会は、教育委員会が推薦を依頼し、委嘱した学識経験者、校長先生、保護者の皆様、及び教育委員会事務局の職員によって構成をされています。

選定審議会は、調査研究会からの報告を参考にしながら、選定審議会独自の立場で審議した上で、⑦というところがございしますが審議結果を教育委員会に答申いたします。

教育委員会では、この答申を参考にして、独自の視点で教科用図書を審議し、最終的に教育委員会の責任と権限のもとで、教科用図書を採択いたします。

以上が、中学校の教科用図書における採択手順でございます。

続きまして、教科用図書の審議手順を説明させていただきます。

戻っていただきまして、次第の2に議事というものがございしますが、本日の中学校の教科用図書のうち、家庭・歴史・公民、道徳・音楽・器楽、地理・地図、英語となっております。

進め方でございますが、各教科とも、今お座りの席において、この後、事務局から調査研究報告書を説明させていただきます。その後、移動していただいて、学識分科会、校長分科会、保護者分科会の3つの分科会に別れていただいて、審議をしていただくことになります。

最後になりますが、選定審議会の役割について説明をさせていただきます。教科用図書を採択するのは、教育委員会の責任と権限で行なわれるものでございますので、選定審議会におきましては、あくまでも教科用図書の調査研究を行うという立場になっております。どの教科書がよい、悪いという観点ではなく、教科用図書の内容や構成、表記などが、調査研究

報告書において客観的に偏ることなく示されているかなど、教科用図書を調査研究するという観点から、幅広い御意見等をいただければと思っております。

以上、本日の審議の手順について御説明いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、次第に従いまして、これから議事に入りたいと思います。議事の進行は、会長にお願いしたいと思います。会長、よろしくお願いいたします。

(会長)

改めましておはようございます。これより中学校の教科用図書について審議してまいりたいと思います。初めに事務局からお願いいたします。

(事務局)

カリキュラムセンターの鶴木と申します。まず初めに、今回の教科書の採択に向けた調査研究につきまして、説明をさせていただきます。今回の教科書の採択に向けた調査研究につきましては、文部科学省の検定を通った教科書目録に掲載してある教科書について、調査研究をしています。大日本図書につきましては、前回の令和2年度の検定を通った教科書がこの教科書目録に掲載されていることを考慮し、前回審議結果を踏まえ、今回調査した内容を資料としてまとめております。なお、大日本図書が候補本となっている教科は、数学、理科、保健体育の3教科となっております。

令和6年度川崎市使用教科書につきまして、調査研究員からあげられた調査研究報告⑥と学校からあげられた声をまとめた調査研究報告書⑤について家庭、歴史・公民、道徳、音楽・器楽、地理・地図、英語の報告をさせていただきます。初めにお手元の紙資料か、GIGA端末の資料2-1を御覧ください。すべての種目に共通していることについてお伝えします。

報告書⑥1つ目の項目、「学習指導要領との関連」については、学習指導要領の目標、内容等をふまえたものになっています。

(事務局)

では、技術・家庭、家庭分野の教科書につきまして報告させていただきます。報告書⑥を御覧ください。資料2の3ページでございます。

2つ目の項目「内容」についてですが、東京書籍は、衣生活や食生活の基礎的な技能を「いつも確かめよう」でまとめて示しています。また、各編の導入で既習内容を振り返り、学習の見通しがもてるように「小学校家庭科で学んだこと」と「この編で学ぶこと」を掲載し、各章のはじめに目標と学習課題を示し、学習のまとめで、生活の課題と実践につながる内容を掲載しています。教育図書は、衣生活、食生活の基礎的な知識や技能を図や資料に示しています。また、編のはじめに「自立度チェック」、各章のはじめに「めあて」と「キーワード」を示し、各章末の学びに生かそうで生活の課題と実践例を掲載しています。開隆堂は、調理手順や製作の基礎・基本を写真や言葉で示しています。また、各内容のはじめに学習の目標を示し、学習のはじめに自分の日常生活の問題に気付くような活動を促す言葉を掲載しています。

次に3つ目の項目「構成・分量・装丁」についてですが、東京書籍は、掲載内容の順番を①ガイダンス・家族・家庭生活②食生活③衣生活④住生活⑤消費生活環境⑥家族・家庭生活⑦生活の課題と実践の順で配列しています。教育図書は、掲載内容の順番を①ガイダンス②家族・家庭生活③食生活④衣生活⑤住生活⑥消費生活・環境⑦生活の課題と実践の順で配列しています。開隆堂は、掲載内容の順番を①ガイダンス②家族・家庭生活③食生活④衣生活⑤住生活⑥消費生活・環境⑦生活の課題と実践の順で配列しています。

次に4つ目の項目「表記・表現」についてですが、東京書籍は、他教科や小学校での学習内容との関連するページに教科や単元内容を表記しています。教育図書は、他教科や小学校での学習内容との関連をマーク付きで表記しています。開隆堂は、「関連」というマークで他教科の内容を標記しています。

以上、報告書⑥について報告させていただきました。続いて、報告書⑤について報告させていただきます。報告書⑤4ページを御覧ください。

1つ目の項目「内容」についてですが、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」に関わる3社の工夫について、実習例や実践例が視覚的に分かりやすく示されている、動画コンテンツが二次元コードで示されている、家庭での実践へつなげられる内容が示されている、学習のポイントが分かりやすく示されている点について意見が挙げられています。

2つ目の項目「構成・分量・装丁」についてですが、学習の見通しがもてる構成や学習の振り返りができるようなコーナーが設けられている点について意見が挙げられています。

3つ目の項目「表記・表現」についてですが、3社とも、切り方などが写真で示され、実習例に写真やイラストを用いて示されていることや、SDGsとの関連内容が表記されている点について意見が挙げられています。

以上、報告書⑤について報告させていただきました。

(事務局)

社会歴史的分野の教科書につきまして報告させていただきます。初めに資料の訂正をお願いします。10ページです。上から3段目育鵬社の「社」の字が「者」になっておりました。大変失礼しました。会社の「社」の字に訂正をお願いします。では報告書⑥を御覧ください。6ページです。

「内容」についてですが、東京書籍は、「スキルアップ」等のコーナーで、具体的な知識や歴史の学習に必要な技能を示しています。各章のまとめでは、シンキングツールを時代の特色を考えるコーナーを設けています。また持続可能な社会に観する取組も掲載しています。教育出版は、「歴史の技」等のコーナーで歴史学習に関する知識や技能を身に付けるために資料活用に関わる問いなどを掲載しています。各章のまとめでは時代の特色を生徒が説明するコーナーを掲載しています。「歴史学習の終わりに」ではSDGsの目標を示しています。帝国書院は、「タイムトラベル」等のコーナーで時代を大観するイラストや歴史学習に必要な技能を示しています。「章の学習を振り返ろう」ではステップを踏んで時代の特

色を考える活動を示しています。「未来に向けて」ではSDGsについて示しています。山川出版社は、第1章で、年表の見方や学習内容のまとめ方等、歴史の学習に必要な技能を示しています。各章の「まとめ」のページでは、各時代を捉え表や文章でまとめる活動を示しています。現代の單元では、自然災害や温暖化、現代の諸課題を取り上げています。日本文教出版は、第1編で、用語の説明や、小学校の学習を生かして社会科の学び方を示しています。各時代の「まとめと振り返り」のページでは、時代の特色を捉えるための学習活動を掲載しています。「政治参加の歩み」「災害への対策の歴史」等をSDGsと関連して示しています。自由社は、「歴史の言葉」「知っ得ポイント」のコーナーで事象の説明や解説を示しています。章末のまとめでは、時代の特徴を整理したり、自分の考えを伝え合ったりする活動を示したりする活動を掲載しています。巻頭では「日本の世界文化遺産」を取り上げています。育鵬社は、序章で資料収集の仕方や発表方法等、歴史学習に必要な知識や技能の習得について示しています。各章の「学習のまとめ」では、時代を捉えられるよう年表や資料を掲載しています。現代の單元では、自然災害や少子化等現代の諸課題について取り上げています。学び舎は、「歴史への案内」で歴史の学習に必要な技能を示したり、学習のまとめで用語の確認等を行ったりしています。章や部のまとめでは時代像を捉えるために資料等を掲載しています。第10章では、現代の課題に向き合い、考えを表す活動を掲載しています。令和書籍は、序章で歴史的な見方・考え方等の歴史の学び方を示したり、章の扉で学習の見通しをもてるようにしたりしています。章のまとめでは、学習したことをまとめる方法を示しています。第6章では、地球温暖化について調べたり考えたり活動を掲載しています。

「構成・分量・装丁」についてですが、各社とも、章や部などの単元のはじめに、学習課題やテーマ、学習の見通し等を示し、その単元の終末ではそれらを踏まえ単元のまとめを行う構成にしています。また、見開きページや本文の冒頭で課題を示し、資料を活用して解決に向かう構成となっています。

「表記・表現」についてですが、各社がそれぞれ、記載の仕方やマークの使い方等、読みやすくなるよう工夫をしております。

以上、報告書⑥について報告させていただきました。続いて、報告書⑤について報告させていただきます。報告書⑤を御覧ください。資料9ページを御覧ください。

「内容」についてですが、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習の取り組み態度」に関わる9社の工夫について、資料や学習活動等について肯定的な意見がありました。「構成・分量・装丁」についてですが、単元の課題の設定と、単元末での解決の構成となっていることが、課題を追究し解決する学習過程に適しているなど肯定的な意見がありました。「表記・表現」ですが、キャラクターの活用やマークや関連内容の記載の仕方、振り仮名等を工夫している点などについて肯定的な意見がありました。

以上、報告書⑤について報告させていただきました。

(事務局)

続いて、社会公民分野の教科書につきまして報告させていただきます。はじめに報告書⑥

を御覧ください。13ページです。

「内容」についてですが、東京書籍は、章の導入で思考ツール等を活用して課題を見出し、章の探究課題を設定する活動を示しています。章のまとめでは、図や表に学習内容を整理してまとめ、具体的な事例を通して考えたり議論したりする活動を示しています。第5章の導入でSDGsを取り上げています。教育出版は、章の導入で具体的な事例を通して章を見通した学習課題を設定する活動を示しています。章末の「学習のまとめと表現」では章の問いについて段階的に捉える活動を示しています。巻頭や各ページでSDGsの目標やSDGsと学習内容のつながりを示しています。帝国書院は、章の導入でイラストを活用しながら、身近な生活の場面と結び付けて、章の問いを設定する学習活動を示しています。「章の学習を振り返ろう」では章の問いに対して図に整理して考えまとめる活動を示しています。「未来に向けて」のコーナーにおいてSDGsについて示しています。日本文教出版は、章の導入で漫画から具体的な事例と学習内容を結び付け、章の問いを設定する学習活動を示しています。単元末の「章のまとめをしよう」では、関係図や資料を活用して理解を深める活動を示しています。「明日に向かって」のコーナーでSDGsの具体的な取組を示しています。

自由社は、章の導入でテーマを示し、見開きページの「やってみよう」のコーナーで各時間の学習内容を説明したり、話し合い等の活動を促す課題を示したりしています。「学習のまとめと発展」では、自らの考えを文章で表現する課題を掲載しています。最終章では「持続可能な社会」について考える活動を示しています。育鵬社は、章末の「憲法のこれから」「経済のこれから」等の章末のコーナーへのつながりを意識して章の課題を設定する学習活動を示しています。章末の「学習のまとめ」では章の導入で示した課題について、図にまとめたり、考えたりする活動を示しています。SDGsの取組の例も示しています。

「構成・分量・装丁」についてですが、各社とも、単元を通した課題解決を進めていくことができるよう、導入、本文、まとめの仕方を工夫した構成となっています。また、生徒が公民の学習の方向性が分かるように、巻頭資料を活用して写真等を掲載しています。

「表記・表現」についてですが、6社とも、学習との関連を示したり、マーク等を活用したりして、読みやすくなるよう工夫をしております。

以上、報告書⑥について報告させていただきました。続いて、報告書⑤について報告させていただきます。15ページを御覧ください。

「内容」についてですが、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習の取り組む態度」に関わる6社の工夫について、興味を引く題材、新しい人権やSDGs、生活や社会との結びつき等について肯定的な意見がありました。

「構成・分量・装丁」についてですが、単元のはじめの課題の設定や見通しの掲載と、単元末での振り返りを行う構成となっていることについての肯定的な意見がありました。「表記・表現」ですが、色遣いや文字の大きさ、キャラクターの活用等を工夫している点などについての意見がありました。

以上、報告書⑤について報告させていただきました。

(事務局)

つづきまして、道徳科の教科書につきまして、報告させていただきます。

初めに報告書⑥18ページを御覧ください。「内容」についてですが、東京書籍は、いじめの問題、生命の尊さに関する内容は3つの教材でユニット学習を設定しています。教材の終わりに「考えよう」「見つめよう」を掲載し、自己を見つめたり、考えを深めたりする問いを掲載しています。教育出版は、いじめの問題、持続可能な社会、生命の尊さに関する内容は2つの教材でユニット学習を設定しています。教材の終わりに「学びの道しるべ」を掲載し、問題意識をもつ問いや多面的・多角的に考える問いを3つ掲載しています。光村図書出版は、いじめの問題、情報モラル、環境、人権等の現代的な諸課題について、ユニット学習を設定しています。11教材と最終教材は内容項目を限定せず、道徳科の学び方、1年間の振り返りができるようにしています。日本文教出版は、いじめと向き合う、よりよい社会を考えるというテーマでユニット学習を2つから3つ設定しています。教材を通して考える問いや自分との関わりで考える問いを掲載しています。別冊「道徳ノート」があり、1時間ごとや学期ごとの学習の記録を記入するページを設定しています。学研は、キャリア教育、多様性、SDGsの内容について、2つから3つの教材でユニット学習を設定しています。問題解決的な学習などの進め方を紹介した「深めよう」というページや教材のおわりに、考えを深めるための問いを2つ掲載しています。あかつき教育図書は、いじめを考える、情報モラル、キャリアというテーマでユニット学習を設定しています。問題解決的な学習などの多様な学習例を紹介した「マイプラス」というページや、教材の終わりに考えを深める問いを2つ掲載しています。日本教科書は、いじめの問題、情報モラル、環境資源などの現代的な課題に関連する教材を掲載しています。ウェルビーイングカードを巻末に付け、カードを使って学習ができるようにしています。

次に「構成・分量・装丁」についてですが、1つ目の黒点に関して、7社とも「道徳科の学び方」について教材の冒頭に掲載しています。何を学習するのかという点で、授業開きで活用できるページを掲載しています。違いをあげると、光村図書出版、あかつき教育図書は第1教材で道徳科で何を学ぶのかを示しています。2つ目の黒点に関してデジタルコンテンツに関しては7社とも二次元コードで朗読の音声、動画や画像の資料が見られるようになっています。違いをあげると、東京書籍は全ての教材に朗読、ワークシートを掲載しています。小学校で学習した教材を中学校でも掲載しているのは、東京書籍、教育出版、光村図書出版です。

次に「表記・表現」についてですが、7社とも、道徳科で学ぶ4つの視点ごとにマークを設け、それぞれの教材に表示しています。また、読み物教材だけでなく、漫画、写真等を用いた教材を掲載しています。

以上、報告書⑥について報告させていただきました。

続いて、報告書⑤について報告させていただきます。20ページを御覧ください。

「内容」についてですが、生命の尊さやいじめの問題など、重点化した指導ができる点、

ユニットで関連付けて学習ができる点、問いを例示し、考えさせたいことなどを掲載している点などが挙げられています。

「構成・分量・装丁」についてですが、道徳科で何を学ぶのかを示している点、朗読音声や動画等のデジタルコンテンツが見られる点、巻末に年間の振り返りのページが設けられている点などが挙げられています。

「表記・表現」ですが、4つの視点ごとに各社とも色分けやマークで表示している点などが挙げられています

以上、報告書⑤について報告させていただきました。

れでは 4つの種目、家庭、歴史、公民、道徳について、御審議のほどよろしくお願いたします。

(会長)

ありありがとうございました。各学校の先生達や、調査研究員達が調べてくれた結果が報告していただきました。

それではこれより、学識者分科会、学校長の分科会、保護者の分科会の3つの分科会に分かれて御審議をいただきたいと思います。その前にこれまでの説明や資料につきまして、全体に関わる御質問等はございますでしょうか。

(委員)

調査研究報告書の内容、かわさき教育プランというところにつきまして、かわさき教育プランとはどこかに資料は載っていますでしょうか。

(事務局)

こちらの資料にはないのですが、資料としてホームページ等には載っていますので、御用意することは可能です。

(委員)

わかりました。ありがとうございます。内容の観点の中でそこだけ読み取れなかったので御質問させていただきました。

(会長)

教育委員会の取組内容が10年くらいの計画として書いておりまして、その目標が、パッとはいえないのですが、「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」という基本理念を基に計画がされていて、川崎らしい教育というところが観点になり令和7年度までが、第2次かわさき教育プランで、令和8年度からまた新しいプランになりますが、川崎らしい教育、川崎のものを取り上げたりだとか、川崎らしい生き方だとか。

(委員)

住まい、地域性だとか。

(会長)

そうですね。

(委員)

あるいは、そこに暮らす層というんでしょうかね。

(会長)

「ともに生きる」ですとか、「協働して」、ということを川崎の子どもたちに求めたいこととしてプランに出てきます。

(会長)

では議事進行を一旦事務局にお返しします。

(事務局)

会長ありがとうございます。ここからは、学識者分科会、校長分科会、保護者分科会にわかれます。それぞれの立場で御審議をお願いしたいと思います。学識者分科会はここ第2研修室で、保護者分科会は、第4会議室に席を準備しております。また、学校長分科会は、第4研修室に御移動いただければと思います。教科書を各テーブルに御用意してございますので、御参照いただきながら、調査研究報告書に対しての御意見をいただければと思います。

それでは、分科会による審議をお願いいたします。それぞれの部屋、テーブルに御移動ください。また、分科会が終了いたしましたら、休憩にいたしますので、各自昼食をお取りいただき、13時にこちらの第2研修室にお集まりくださいますようお願い申し上げます。第5研修室も開けておりますので、そちらで昼食をとっていただくことも可能ですので御利用いただければと思います。

【分科会審議 休憩】

【議事再開】

(会長)

午前中の各分科会での熱心な御審議ありがとうございました。それでは、午後の部を始めさせていただきます。審議を再開しますので事務局から事務局からお願いいたします。

(事務局)

音楽一般の教科書につきまして、報告させていただきます。はじめに資料2の23ページ報告書⑥を御覧ください。

「内容」についてですが、教育出版は、「音楽を形づくっている要素」を解説し、それらの働きを意識しながら鑑賞するコーナーを設けたり、「音楽を形づくっている要素」の視点で曲の特徴について考えるポイントを示したりしています。また、各教材に「学習目標」、「具体的な学習活動」を示したり、「学習したことを生かして比較する活動」を掲載したりしています。教育芸術社は、曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解を促すために、キャラクターを活用したり、各教材に思考・判断のよりどころとする主な「音楽を形づくっている要素」を示し、巻末には、各要素について確認するコーナーを設けたりしています。

また、各教材に「学習目標」「具体的な学習活動」「考えたいポイント」「音楽を形づくっている要素」を示しています。

次に「構成・分量・装丁」についてですが、教育出版は、キャラクターを活用して学習の流れを示したり、教材を比較して学ぶためのコーナーや学び合うための活動例を示すコーナーを設けたりしています。また、巻末の折り込みは、厚い紙質を使用しています。教育芸術社は、各教材の横に、音楽的な見方・考え方を働かせて学習するために考えたいポイントを示したり、キャラクターや吹き出しを活用して思考を促すための手立てを示したりしています。また、全体を通して同じ紙質、綴じ方で統一しています。

次に「表記・表現」についてですが、教育出版は、学習目標の帯の色を歌唱・創作・鑑賞で色分けしており、教育芸術社は、各教材のページの色を歌唱・創作・鑑賞で色分けしています。

以上、報告書⑥について報告させていただきました。続いて、報告書⑤について報告させていただきます。24ページにございます報告書⑤を御覧ください。

「内容」については、生徒の思考・判断のよりどころとする音楽を形づくっている要素の示し方の2社の違いについて、教育出版は、「学習の進め方」で「音楽を形づくっている要素」を示し、それを手がかりに学習を進める手立てを掲載している点、教育芸術社は、教材ごとに学習の手がかりとなる「音楽を形づくっている要素」を掲載している点といった意見が挙げられています。

「構成・分量・装丁」についてですが、2社とも自分の考えを友達と共有する活動や手立ての掲載について、意見が挙げられています。

「表記・表現」についてですが、教育出版は、新出の用語や記号を取り出して示している点、教育芸術社は、学習の中でポイントとなる用語や記号を取り出して示している点について意見が挙げられています。

以上、音楽一般の調査研究報告書⑤について報告させていただきました。

続いて、音楽器楽合奏の教科書につきまして、報告させていただきます。はじめに26ページにございます報告書⑥を御覧ください。

「内容」についてですが、教育出版は、キャラクターや吹き出しを活用して、楽器を創意工夫して演奏する際のアドバイスや解説などを示しています。また、器楽の学習を生かし、鑑賞の領域と関連付けながら、共通点や相違点を考えたり、創作の活動に取り組んだりするコーナーを掲載しています。教育芸術社は、キャラクターや吹き出しを活用して、音楽を形づくっている要素について知覚・感受し、それをもとに創意工夫を考えるためのヒントを示しています。また、器楽の学習を生かし、課題や条件に沿って音で確認しながら創作の学習を進める手立てを示しています。

次に「構成・分量・装丁」についてですが、教育出版は、題材名を各楽器のページに示し、各教材に学習目標を示し、各楽器の学習は、楽器の歴史や種類、基本的な奏法、練習曲で構成し、それを生かして合奏する「合わせて演奏しよう」や「名曲旋律集」を掲載しています。

教育芸術社は、冒頭に資質・能力と、それに対応した学習内容を示し、各教材に学習目標や学習活動、音楽を形づくっている要素を示しており、各楽器の学習は、鑑賞曲、楽器の歴史や種類、基本的な奏法、練習曲で構成し、それを生かして学習を進める「アンサンブルセミナー」や「学びのコンパス」、「楽器で Melody」を掲載しています。

次に「表記・表現」についてですが、和楽器の箏の楽譜について見てみますと、教育出版は、すべての曲を五線譜で示し、生田流の縦書きの楽譜を別のページに掲載しています。

教育芸術社は、すべての曲を生田流の縦書きの楽譜で示し、必要な部分には同じページ内に五線譜を掲載しています。

以上、報告書⑥について報告させていただきました。続いて、報告書⑤について報告させていただきます。27ページにございます報告書⑤を御覧ください。

「内容」については、教育出版は、キャラクターを活用して、楽器を演奏する際のアドバイスや解説などを示している点、教育芸術社は、「アンサンブルセミナー」では、教材ごとに、思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素を掲載し、キャラクターを活用して、創意工夫を考える手立てを示している点といった、2社の違いが挙げられています。

「構成・分量・装丁」についてですが、教育出版は、各楽器の学習は、楽器の紹介と奏法のポイント、アンサンブル教材で構成し、音楽活動の手順やポイントを掲載している点、教育芸術社は、各楽器の学習は、音色の鑑賞や楽器の歴史、基本的な奏法、アンサンブル教材で構成し、知覚・感受や創意工夫を促す手立てを掲載している点といった、各楽器の学習の流れについて、多くの意見が挙げられていました。

「表記・表現」についてですが、教育出版は、リコーダーの運指表などを折り込みページの見開きで掲載している点、教育芸術社は、リコーダーの運指表などを見開きで掲載している点について多くの意見が挙げられていました。

以上、音楽器楽合奏の調査研究報告書⑤について報告させていただきました。

(事務局)

社会、地理分野の教科書につきまして報告させていただきます。はじめに報告書⑥29ページを御覧ください。

「内容」についてですが、東京書籍は、「資料から発見」や見開きの各コーナーで学習内容を深めたり、資料を読み取る力を身に付けられるよう、調べ方の手立てを示したりしています。単元末には単元の探究課題に対して「見方・考え方」を働かせて考える「まとめの活動」のコーナーを掲載しています。巻頭ではSDGsについて、世界や日本各地の取組例を紹介しています。教育出版は、「地理の窓」や「THINK」のコーナーで学習内容と現代社会の関連を示したり、資料を読みとる技能や考えを深める視点を示したりしています。また、単元末の「学習のまとめと表現」のコーナーでは3つのステップを経て地域的特色に迫る活動を掲載しています。巻頭では、地球的課題とSDGsの17との関係を紹介しています。帝国書院は、「地理プラス」「技能をみがく」のコーナーで学習内容について説明を加えたり、社会科で必要な技能について示したりしています。各単元末の「章の学習を振

り返ろう」では、章の問いに対して地図や思考ツールを活用して考えをまとめる活動を示しています。「未来にむけて」のコーナーでは、持続可能な社会に向けて取り組む事例等を掲載しています。日本文教出版では、「地理＋α」「スキルUP」のコーナーで事例についての説明や資料の読み取り方などの技能について示しています。また、学習課題の解決に向けて、見方・考え方を働かせて考える視点を示しながら、自分の考えを整理したり、表現したりする活動を示しています。巻頭では、「持続可能な社会と私たち」でSDGsの達成度について考える活動を示しています。

「構成・分量・装丁」についてですが、東京書籍は各単元のはじめに「探究課題」を設定し、単元末では「探究課題」を解決する構成にしています。各見開きページでは学習課題を示し、「チェック」「トライ」のコーナーで課題の解決を行う構成にしています。

教育出版は、単元の導入で単元の問いや着目する視点を示し、単元末の「学習のまとめと表現」で導入の問いを解決する構成にしています。各見開きページでは、学習課題を示し、「確認!」「表現!」のコーナーで解決を図る構成にしています。

帝国書院は各単元のはじめのページに「章の問い」で単元の問いを示し、章末の「章の学習を振り返ろう」のページで「章の問い」を解決する構成にしています。各見開きページでは学習課題を示し、「確認しよう」「説明しよう」で課題の解決を図る構成にしています。

日本文教出版は、各州や各地方の単元の導入で「追究するテーマ」を示し、単元末の「学習のまとめ」で解決を行う構成にしています。各見開きページでは学習課題を示し、「確認」「表現」のコーナーで解決を図る構成にしています。

「表記・表現」についてですが、4社ともユニバーサルデザインフォントの採用、キャラクターの活用など、読みやすさへの工夫を行っています。

以上、報告書⑥について報告させていただきました。続いて、報告書⑤について報告させていただきます。31ページを御覧ください

「内容」についてですが、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」等学びに向かう力と人間性等に関わる4社の工夫について、おおむね肯定的な意見が多くありました。特に資料の活用や技能の育成について意見がありました。SDGsについては、これからの学習が必要であるという声が多くありました。

「構成・分量・装丁」についてですが、4社とも、単元の課題の設定と、単元末での解決、また見開き2ページにおける課題の明示と課題の解決の構成となっていることに触れている意見がありました。

「表記・表現」ですが、4社とも資料等が見やすいように配慮したユニバーサルデザインや、マーク等の示し方の工夫などについて肯定的な意見が多くありました。

以上、報告書⑤について報告させていただきました。

続いて、社会、地図の教科書につきまして報告させていただきます。はじめに報告書⑥を御覧ください。32ページです。

「内容」についてですが、東京書籍は、巻頭で、地図帳の活用方法について示すとともに、

地図や資料等の読み取り方等を示した「BEE's eye」を設けています。諸地域の学習で課題に沿った学習をする際に活用できるように、各地域の主題や項目に合わせた資料や主題図掲載しています。また、SDGsに関連して、環境・資源・エネルギー問題、人口・貧困問題、紛争・難民問題といった現代社会の諸課題について取り上げた特設ページを設けています。帝国書院は、巻頭で、地図帳の活用方法について示し、世界各州の特色を大観し、概略が理解できるよう、世界各州の鳥瞰図を掲載するとともに、学習活動を通して地図活用の技能が身に付くよう、各所に「地図活用」のコーナーを設けています。資料のページでは、日本の国土について複数の地図を関連付け、読み取ることを促す「主題学習」が設定されています。また、SDGsの観点に基づいた資料として、世界各地の環境問題や、持続可能な社会に向けた取組を写真等で紹介しています。

「構成・分量・装丁」についてですが、各社とも、地図帳の活用が地理の学習以外にも広がっていくような工夫をしております。また、生徒自身が調べる活動において活用できる統計資料も掲載しています。

「表記・表現」についてですが、各社とも、色遣い等において、読みやすくなるよう工夫をしております。東京書籍は、土地の高低について、2000万分の1地図では15段階で色分けし、100万分の1の地図では土地の高さを10段階と市街地で分けています。帝国書院は、土地の高低について2000万部の1地図では14段階で色分けし、100万分の1の地図では土地の高さ4段階と五つの土地利用の様子で色分けをしています。

以上、報告書⑥について報告させていただきました。続いて、報告書⑤について報告させていただきます。33ページを御覧ください。

「内容」についてですが、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」等学びに向かう力、人間性等に関わる2社の工夫について、おおむね肯定的な意見が多くありました。特に、資料の内容や、地理的分野の学習内容とのつながり、SDGsに関しての意見が見られました。「構成・分量・装丁」についてですが、地理の学習やその他の場面での活用の仕方について肯定的な意見が多くありました。「表記・表現」ですが、地図の色合いや図、グラフの見やすさについての意見がありました。

以上、報告書⑤について報告させていただきました。

(事務局)

英語の教科書について、報告させていただきます。資料⑥35ページとなります。

「内容」についてですが、「知識及び技能」に関連して、各社ともに、各単元の本文内で文法事項について扱い、実際のコミュニケーションにおいて活用できるような練習活動を設定しています。文法事項のまとめについて、東京書籍は「Grammar for Communication」、開隆堂は「英語早わかり」、三省堂は「Language Focus」教育出版は「Grammar」、光村図書は「Active Grammar」、啓林館は「Focus on Form」を単元等のまとまりの後に掲載しています。

「思考力、判断力、表現力等」に関連して、各社ともに複数単元を学習した後に、学習し

た語彙や文法事項を実際に使って、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の技能を統合的に活用するまとめの言語活動として、東京書籍は、相手意識をもって自分の気持ちや考えを伝え合う「Stage Activity」を設けています。開隆堂出版は既習事項を活用して、スピーチなどを行う「Our Project」を設けています。三省堂は身近な話題について、自分の考えを整理して伝え合う「Project」を設けています。教育出版は学んだ知識や表現を生かす課題解決的な課題に取り組む「Project」を設けています。光村図書はコミュニケーションを行う、目的・場面・状況に応じて自分の考えを広げ、伝え合う「You Can Do It!」を設けています。啓林館はモデルを読んだり、聞いたりして自分の考えを持ち、伝え合う「Project」を設けています。「学びに向かう力、人間性等」に関連して、各社とも生徒が学習の見通しをもったり、振り返りをおこなったりするために「CAN-DO リスト」を設けています。また、各社とも生徒が主体的に学習を進めていくための学び方を特集したページを掲載しています。「かわさき教育プラン」に関連して、各社とも単元の題材などで、国際理解や異文化理解を扱う内容について扱っています。

次に、「構成・分量・装丁」についてですが、「主体的・対話的で深い学びに関わる構成」については、各社とも自分の考えや気持ちを伝え合ったりする活動を設けたり、小学校での学習を振り返ることができるようにしたりする工夫をしています。

「分量・装丁」については、各社とも学年1冊となっており、判型は東京書籍、開隆堂、三省堂、啓林館 がA4版教育出版、光村図書がAB版としています。

「学習者用デジタル教科書」については、各社とも個別最適な学びの実現につながるよう工夫しています。

次に、「表記・表現」についてですが、各社とも、読みやすさの工夫として手書きに近いフォントやユニバーサルデザインフォントを採用したり、色覚特性に配慮した表記の工夫をしたりしています。

以上、報告書⑥について、報告させていただきました。

つづきまして、報告書⑤について報告させていただきます。37ページを御覧ください。

「内容」についてですが、身に付けるべき文法事項を繰り返し活用できるよう練習活動、既習事項を自分で選択して即興で話す伝え合う力を育成するための活動、生徒が自分で学習を進めていくための学び方の手立てなどが挙げられています。

「構成・分量・装丁」については、小中の学びをつなぐ工夫や、自分の気持ちや考えを伝え合う活動の際に活用できる資料などが挙げられています。

「表記・表現」については、内容の理解を助けるためのイラストや写真の工夫や1年次の書体の工夫が挙げられています。

以上、報告書⑤について報告させていただきました。

それでは、以上の5つの種目、音楽、器楽、地理、地図、英語について御審議のほど、よろしくお願いいたします。

(会長)

ありがとうございました。それでは先ほどの午前中と同様の3つの分科会に分かれまして御審議いただきたいと思いますが、その前にいままでの説明、資料等について、何か御質問等ありませんでしょうか。

(委員)

次第についての質問です。この審議の後に「3その他」とありますが、その他とは何の時間でしょうか。質問の意図は午前中審議時間が十分でなかったことについて、課題感がありまして、議事進行の流れについてフィードバックがございまして、質問させていただきました。

(事務局)

この後のスケジュールにつきましては、分科会の後休憩を挟んで最後に報告がある流れ、全体審議があるかたちとなっております。後半も分科会是一个の科目で25分となっております。休憩を20分ととって報告となっております、前半は長くなってしまい申し訳なかったのですが、少しそこで調整はできると思いますので、この後様子を見ながら配分は考えさせていただきますと思います。「その他」については、何か検討することがあれば出していたくことになると思いますが、なければ、終了となると思います。

(委員)

それでは後ほどその他の時間で全体に関わることで提案させていただきます。

(会長)

なかなか教科書がたくさんあるので。

(委員)

先にやってからでいいと思います。どちらかというと、次回の教科書の審議の役に立ちそうなので、そのつもりで提案させていただきます。

(会長)

次回も同じくらいの量があると思いますので。それでは、進行を一旦事務局に戻します。

(事務局)

会長ありがとうございます。これより、学識者分科会、校長分科会、保護者分科会、にわかれまして、それぞれの立場で御審議をお願いしたいと思います。

分科会が終了いたしましたら、20分休憩ののち、15時から報告、全体審議を行いますので、再度お集まりいただければと思います。

【分科会審議】

【審議再開】

(会長)

3時になりました。御審議ありがとうございました。それでは、これまで御審議いただき

ました各分科会で出た御意見等をそれぞれ御報告していただきたいと思います。お願いします。

(事務局)

技術・家庭、家庭分野です。学識者分科会からは、各分野で着けた力を次の課題解決に役立てたり、実生活に繋げたりする実践例や、他教相互の関連について表記について御意見がありました。校長分科会からは、小学校との学習のつながりや課題を解決する学習過程の示し方や、食品などの写真の示し方について御意見がありました。保護者分科会からは、2次元コードの示し方や、伝統文化についての掲載や、キャリア教育に関する御意見がありました。

(事務局)

社会科歴史的分野です。学識者分科会からは、大きな年表と見開きページで示されている年表の示し方、章の初めの単元を貫く課題の設定を示す工夫、課題に対するまとめとのつながりや表現方法について意見がありました。校長分科会からは、図やイラストの掲載の仕方、資料の活用の仕方、かわさき教育プランの視点から、川崎市や神奈川県資料の掲載について意見がありました。保護者分科会からは、章のまとまりや、見開きページの示し方、教科書の見方や使い方について意見がありました。

続いて公民的分野です。学識者分科会からは、小学校や地理的分野、歴史的分野との関連の示し方、導入やまとめ方の工夫、学んだことを表現することの工夫について、持続可能な社会の形成につながる構成、について意見がありました。校長分科会からは、生徒が興味を持てるような工夫の仕方、かわさき教育プランに関わる、川崎市を取り上げた資料の扱い、持続可能な社会の形成につながる近年の社会課題について意見がありました。保護者分科会からは、かわさき教育プランに関わるSDGs等の教科書とのつながりについて意見がありました。

(事務局)

道徳です。学識者分科会では、目次や巻末の学習一覧は、学校がカリキュラムづくりに役立てたり、重点化するのに参考になること。子どもが教材を使ったあとにどのように深めていくか流れが分かるかという部分についての御意見がありました。小学校で学んだ教材については、感じ方や自分の成長がとらえやすいこと、読み物教材だけでなく、写真や投書の教材があることで、幅広くとらえられるなどの意見がありました。校長分科会では、教材で取り上げられている人物について、子どもの関心が高く、時代にあった人物かどうかという点や、ノートが活用しやすい教員もいれば、書くことが目的になってしまう教員もいるのではという点、子どもが考えてヒントになる構成について意見がありました。保護者分科会では、文章と写真などの掲載の分量や、見やすさ、これが各社に特徴が出ているという点、話し合いがしやすい印象の構成であるとの意見、いじめの問題について取り上げ方が各社によって異なっているとの意見がありました。

(事務局)

音楽一般の報告です。学識者分科会では、音楽を形作っている要素の各社の示し方について、学習のねらいの中で触れている点、各教材の学習の中で生徒が意識できるように示している点について御意見がありました。また、音楽の学びの過程として大切にされている、音楽をとらえること、それをもとに創意工夫を試行錯誤すること、そして自分がどのように表現したいのかの思いや意図を持つことについて、教科書に手だてが示されている点について、御意見がありました。校長分科会では、表紙や内容の紙質、綴じ方について、また、教材として掲載しているが現代の曲を扱っているかについて、著作権やSDGs、音楽史の視点の教材が示されている点について御意見がありました。また、生徒が音楽を形作っている要素をよりどころとするための手立てについても御意見がありました。保護者分科会では、報告書の表記について、それが学習を進めるにあたってどのように影響するかがわかるとよいという意見がありました。また、教科書の紙質や綴じ方についても御意見がありました。

音楽器楽合奏について、学識者分科会では、琴の楽譜について、縦書きの生田流の楽譜と五線譜の楽譜について、個別最適の学びの視点において、どちらも選べるほうがよいという御意見がありました。校長分科会では、学校現場として、器楽と一般が同じ会社が望ましいという御意見、報告書の琴の行く生田流の楽譜の表記について、流派の名称を示す必要はないのではないかという意見がありました。保護者分科会では、報告書の学習指導要領との関連に関わって、我が国と諸外国の音楽文化を尊重する態度を養う工夫というのはどの部分にあたるのか、という御意見がありました。

(事務局)

社会地理的分野からです。学識者分科会からは、地図や資料の活用場面と教科書の繋がりについて、また、章や節のまとめや考える活動の工夫について、御意見がありました。校長分科会からは、章の課題と学習課題に対する子どもたちの学びとの繋がりについて、また、地図を活用したまとめの仕方、川崎などの事例の取り上げ方について、御意見がありました。保護者分科会からは、ユニバーサルデザインについて、また、イラストの扱い、地図コーナーの資料の掲載などについて御意見がありました。

続いて、社会、地図です。学識者分科会からは、地図を通して見せたいものがわかる資料の掲載の仕方についての工夫、生徒が自分から手に取って調べやすい、調べやすさについての工夫、それからインデックスの違い等から、検索の仕方の違いについて、御意見がありました。校長分科会からは、川崎を取り上げた地図の違い、テーマの違いについて御意見がありました。また、SDGs等を含めた学習との繋がり、視点の示し方等についても、意見がありました。保護者分科会からは、地図のコーナーの違い、イラストや吹き出しの示し方の違いについて、御意見がありました。

(事務局)

英語です。学識者分科会からは、本文が登場人物の生活に沿って物語として進んでおり、身近に感じられる点について御意見がありました。また、単に学んだことを繰り返すのではなく、これまで学んだことを生かしながら生徒が、自分の視点でまとめられるような出口の

設定がされている点について御意見がありました。小学校での学びを振り返り、活用する工夫が大切であるとの御意見もありました。校長分科会からは、単元最初にゴールが示されている点、1，2，3年の学年の目標が示されており、学習の見通しが立てられる工夫がよいとの御意見がありました。付録等で即興での会話活動に繋がるような教材の工夫が大切であるとの意見がありました。保護者分科会からは、互いの考えや気持ちを伝えあうようなコミュニケーションを授業の中心にするような工夫が大切であるという意見がありました。ICTの活用方法も含め、学び方の手立てについて示しているのがよいという御意見がありました。

(会長)

ありがとうございました。ただいまの報告について御意見や御質問等はございますでしょうか。いかがでしょうか。午前、午後一括で報告してもらいました。いかがでしょうか。

よろしいですか。ありがとうございます。

それでは、朝からの全体を通しての御意見、御質問ということで。

(委員)

本日はこのような時間に携わらせていただきまして、ありがとうございます。このように子どもたちの教科書が作られているということで、とても学びにもなり、安心にもなりました。

午前中に出了した課題につきまして、提案という意見でございます。午前中に審議の時間が不十分であったという課題に対し提案があります。まず、次第の方に時間配分が記載されていないことによりまして、教科によって出版している会社数のバランスが見えないところがありました。これは審査する側の方も戸惑いましたし、構成をする側も戸惑うというか。見通しを立てるのに時間配分を書くことは役に立つと思いますので、それぞれ一律ではないところがございますので、次第の方に時間配分を書いていただくと、皆様で意識が統一されるのかなと思っています。また、実際にやってみて審議中は調査研究に関しましての、公平性と妥当性に関する意見交換と、その指導員の方がまず切り出します、教科書の評価といった2本の審議項目があったと理解しています。ですので、調査報告書の妥当性に関しては、ほどほどにし、焦点に沿った教科書の評価といったところが、まさに審査対象としては面白みを感じたところもありますので、そちらの時間配分に関しましても、次回構成する時には参考にしながら御検討いただいて、審査に厚みを持つといったところで、検討いただければと思います。

あと報告のところで、それぞれ指導する方の特色がでていた、ある人は報告の時にそのまま読まれる方、愚直にですね。それで一つあります。また、内容の補足をされる方もいらっしゃいました。統一せよということではありませんが、時間の制約もあるので、審査時間を十分にとってもらおうという狙いに照らして、報告書をただ読むのではなく、より審査に厚みを持たすという目的で、この場での各分科会に行く前の調査報告書の報告につきましては、工夫をしていく余地があるのではないかと思います。次回に向けて楽しみにしています。

今後ともよろしく願います。以上です。

(会長)

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。特に中学校の社会科の教科書は注目をされていて、それに取り組む出版会社も多くてですね。

(事務局)

最大で15冊、最初見ていただいたところがあって、それは申し訳なかったなと今反省していますので、次回冊数のバランスを確認して出したいと思います。

(会長)

今委員会から御指摘のあった点について考えていただいて、協議の、一日の進め方の時間配分を考えていただきたいなと思っています。すごく熱心にやってくださっていたので、私もいつも教科書を見ているものも、もっと時間があればなと感じたところで、非常に楽しくというか、各出版会社の工夫とか見えてよかったかなと思います。それぞれの各調査は各学校の教員が、時間を作ってみたりとか、各調査員がやっていて、その報告書を参考にしながら、今日私たちが目で見えてみるということは、大切なこの審議会の役割ですので、貴重な御意見ありがとうございました。

その他ございますでしょうか。

それでは本日の審議について終了させていただきます。

よろしければ挙手をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

【全員挙手】

(会長)

では、事務局の方にお返しします。

(事務局)

会長ありがとうございました。議事の3その他といたしまして、委員の方から意見や御質問がございましたら今ここでお受けしようと思いますが、いかがでしょうか。今の話以外にも何かあればということで、何もないればこのまま終わりにしたいと思います。

(委員)

補足というか、先ほどのメンバーでいる時間に、100周年を記念してかどうかわからないけど、PTAの方でもPTA協議会の全国大会を川崎市でやりますといったところで、盛り上がっているんですけど、そこでもテーマは、多様性ということで、4人くらいで1つのテーブルを囲んで、今までは登壇者から座学的に一方的に受け取るかたちだったんですけど、より学びを強調しようとか、各々の事情に沿った課題解決をしようといったテーマでテーブルを作ってやるようなところがあって、そこで考えたのが、今授業参観に行くと、割と今の小中学校の教室の姿も、登壇している人から一方的に聞くのではなくて、生徒の一人ひとりの意見を取り入れながらやっているなといったところで、私の時代とは、授業の形態が変

わってきたなと感じていたんですけども、一方で今日は、旧来に戻ってしまったなという感覚を持ったので、そのイメージで再構成していただけたらなと思います。発想としては、普段やっていることをやりましょうということですのでよろしくお願いします。

(委員)

パソコンで配られた資料で、各出版社でどこを強調して改訂したというようなことを書かれていたものが、時間がなくて全部見られなかったのですが、見られていれば今回の話し合いに生かされたかなと思います。

(委員)

加えて、調査報告書の妥当性については、その通りだと思うので、事前に読んでおけばいいのではないのでしょうか。報告に時間を取られているのがもったいないと感じたので、今おっしゃっていたように教科書の作り手の工夫点により知識とバランスをとりたいと思います。時間が足りなかったと思います。公開されていないのでしょうか。

(事務局)

趣意書は公開されています。調査報告書は公開されていません。

その他よろしいでしょうか。

それでは、委員の皆様におかれましては、長時間に渡り大変お疲れ様でした。これをもちまして本日の選定審議会の議事に関する審議は全て終了します。本日御承認いただいた審議内容報告書は、教育委員会に答申しますので御審議ありがとうございました。時間の審議会はすでに御案内しておりますが、7月8日月曜日の午前10時から本日と同じこの場所で開催する予定でございます。議事といたしましては、本日の続きでして、中学校の国語、書写、数学、理科、保健体育、美術、技術を御審議いただく予定でございます。なお、本日配布いたしました資料につきましては、回収しますので、机の上に置いたままお帰りいただければと思います。

それでは、これをもちまして、第2回教科用図書選定審議会を閉会いたします。本日はありがとうございました。

以 上